

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年4月6日(水)

### 《わたしがあなたを忘れることは決してない》

ミサが始まる前に、皆様と一緒に祈りを願った、田中様のことについてご存知ですか。今、彼は自転車事故にあって群馬大学病院に入院しているそうです。話は聞き取れるようですが、自分で話すことが難しく、目は見えていても体は動かさないようで、深刻な状態のようです。

彼は二年前ご自分から教会にやってきて「勉強したいのです」と、おっしゃいました。色々話し合いましたが司祭の目から見たら、一人でこの世の中では生きづらい人として生まれた方だと思います。皆様も気づいていたと思いますが知的にも、また別な面でも、この競争社会では立ち向かえない弱い条件で生きてこられた方です。今、年齢は53才と聞きました。彼が厳しい条件の中で、この人生の波を乗り越えてきたかは一目瞭然です。先日このように病んでいる便りを聞いて、心を痛めています。ある日突然にこのようなことが起こった時に、司祭としてはどのように解釈すればいいのか、どのように納得すればいいのかと、黙想してみました。わざわざ肯定的な考え方で捉えようとしたかも知れないのですが、ある意味で、もし彼が洗礼を受けることなくこの様に事故にあった時、彼にご聖体や、イエス様の御心とか信仰的なことを知らせる人がいなかった場合はどうだろうか。それよりは今、寝たきりの状態でも、純粋に教えてもらったものを信仰として受け入れて、その人なりに今の条件でも祈っているでしょうと思えるのです。

「私は今まで頑張ったけれど何も出来ませんでした。」と言いながらも「あなたに全てのことを任せます。どうか私を救ってください。」とある程度、確信を持った祈りが出来るでしょう。

健康で生きている人の人生が全てではないと、こういうことを見て私達が信仰的に理解出来れば、その方の起きたことに対する悲しみ、怒りに囲まれて「どうしてだろう、どうしてだろう、何故こうなる」と、思う必要はないでしょうという気持ちになりました。早めに病者の秘跡を受けようとしています。面会も限られた人のみで難しいようです。

私達は人間的に理解が出来ないことが沢山あります。その時、先ず皆様をお願いしたいことは、信仰的に消化しようと考えて頂きたいのです。ただ目の前に起きてしまったことのみにとらわれて、自分を破壊してしまう愚かなことにはならないようにしてもらいたいです。皆様、結局私達は振り返って、全体的なものを見る目が必要であることに気がつくと思います。

皆様の身近でも、突然に不幸が訪れるかも知れません。しかし、その時こそもっと強く神様に委ねる強い信仰が必要だと思えます。私達はこのように心配していても、彼はすでに納得して、今、イエス様の訪れを待っているかも知れません。さあとにかく、今日は田中様のためにこのミサを捧げましょう。

今日の第一朗読で綺麗な言葉が読まれたのですがもう一度目を通して下さい。

『シオンは言う。

主はわたしを見捨てられた

わたしの主はわたしを忘れられた、と。

女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。

たとえ、女たちが忘れようとも

わたしがあなたを忘れることは決してない。』 (イザヤ 49・8-15)

さあ、御自分のことを考えて下さい。神様がどのように見ていると思いますか。皆様一人一人が、「神様は私の全てのことを考えていらっしゃるのだ」という信仰があるのでしょうか。確信があるのでしょうか。大体私達が間違えてしまうのは、神様の慈しみは私ではなく別の人に、「私のことを覚えて下さるのでしょうか」という気持ちになることがあります。しかし、皆様が例えどのような悪ことをしても、どのような悲しいことをしてしまっても、どのようにイエス様の心を痛めたとしても、イエス様は、皆様のことを絶対忘れられないのです。

人間的な弱さは色々なところで現われています。例えば老人性痴呆というのでしょうか、怖い病気がありますよね。自分が産んだ子供さえ忘れてしまう病気です。あちこちでそういう方を見ます。それがテーマになった映画もあります。親が、自分が産んだ子供を覚えられない病気に襲われる可能性があるのが私達人間です。しかしイエス様は預言者を通してこのようにおっしゃっています。『たとえ、女たちが忘れようともわたしがあなたを忘れることは決してない。』本当に力になります。よく考えて下さい。皆様がどんな怖さに、恐れに囲まれていても、イエス様が“私のことを絶対に決して忘れない”というこの唯一の信仰を保つことが出来れば、私達は怖さ恐れから解放されると思います。皆様信じて下さい。神様は皆様個人のことを、一人一人のことを、あきらめることはできません。この世での命が終わるまで、イエス様は私達のことを覚えていらっしゃいます。もう一度強く考えてみましょう。

ありがとうございました。